

詣ノ山伏共、道ニ迷テ來レル由ヲ云ケレバ、在家ノ者共哀ヲ垂テ、粟ノ飯、椽ノ粥ナド取出シテ、其飢ヲ相助ク、宮ニモ此等ヲ進セテ二三日ハ過ケリ、

〔酒食論〕飯室律師好飯申様

粟の御料の色こきはをみなへしにぞ似たりける、

〔諸國名産大根料理秘傳抄上〕丹後名物粟蒸大根仕方

これは、丹後與謝といふ所の神には、このしなを出すなり、

一粟飯を焚とき、大根を五六分の輪切にして上ニをく也、此所濱邊なれば、魚類いろくあり、何魚にても潮煮にして、醬油は入れ申さず、右うをの煮汁をかけて喰す、風味一だん也、神事のせつ、神にそなへ、客に出す、此所に竹野大こんといふ名物あり、あまり太からず、長貳尺ほど有、是を一寸五分ほどに細きせん、に切、粟飯の上に澤山にをく也、

稗飯

〔本朝食鑑一〕稗訓比飯衣

集解、稗處々野生田生、中其名品亦多、作飯作粥、其味不佳、而民間作食、若合稻粟之類、而作飯粥、則味稍佳、

〔料理調法集〕飯、稗飯

二ひへを能水にひやして、米に交合焚なり、菜をしばらくして、色を付たるもよし、

〔松屋筆記 六十二〕稗の飯

日蓮書録外一の卷、古寫本也、刊本とは、順次おなじからず、南條殿御返事に、佛、御弟子阿那律尊者ト申セシ人ハ、ヲサナクシテノ御名ヲバ、如意ト申ハ、心ノオモヒノ寶ヲフラシ、ユエ也、コノヨシヲ佛ニトヒマキラセ玉ヒシカバ、昔シウエタル世ニ縁覺ト申聖人ヲ、ヒエノ飯モテ、供養シマキラセシユエト答ヘサセ玉フと云々、稗は和名抄に見え、山野の貧民稗飯、稗團子、稗粥に造て食ふこと、今もしかな